

添付資料

取得可能な資格

保育士資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-1
学芸員資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-2
2級建築士・木造建築士資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-3
インテリアプランナー資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-4
認定心理士資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-5
福祉心理士資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-6
精神保健福祉士国家資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-7
産業カウンセラー受験資格取得について	・・・・・・・・添付資料 1-8

教育文化学部履修モデル

教育学科履修モデル1～6	・・・・・・・・添付資料 2-1
芸術学科履修モデル1～3	・・・・・・・・添付資料 2-2
心理カウンセリング学科履修モデル1～3	・・・・・・・・添付資料 2-3
学校法人浅井学園 就業規則	・・・・・・・・添付資料 3
学校法人浅井学園 嘱託教育職員に関する規程	・・・・・・・・添付資料 4

保育士資格取得について

1. 保育士資格とは

保育士とは、「都道府県知事の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを職とする者」とされている。

2. 資格取得の方法

保育士の資格取得を希望する学生は、次表（１）～（３）にある本学所定の単位を修得し、教育学科幼児教育コースを卒業することによって保育士資格を取得することができる。

(1) 必修科目

児童福祉法施行規則告示表第1による教科目				左記に対応する本学開設授業科目等				
系列	教科目	授業	単位数	授業科目名	授業	単位数		備考
		形態			形態	必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2		
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2		
	児童家庭福祉	講義	2	児童家庭福祉	講義		2	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義		2	
	相談援助	演習	1	相談援助	演習		2	
	社会的養護	講義	2	社会的養護	講義		2	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義		2	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学Ⅰ	講義	2	保育の心理学Ⅰ	講義		2	
	保育の心理学Ⅱ	演習	1	保育の心理学Ⅱ	演習		1	
	子どもの保健Ⅰ	講義	4	こどもの保健Ⅰa	講義		2	
				こどもの保健Ⅰb	講義		2	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	こどもの保健Ⅱ	演習		1	
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養	演習		2	
	家庭支援論	講義	2	家庭支援論	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	保育課程論	講義		2	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2		
	保育内容演習	演習	5	保育内容（環境）	演習	2		
				保育内容（人間関係）	演習	2		
				保育内容（言葉）	演習	2		
				保育内容（表現）	演習	2		
				保育内容（健康）	演習	2		
	乳児保育	演習	2	乳児保育	演習		2	
	障害児保育	演習	2	障害児保育	演習		2	
	社会的養護内容	演習	1	社会的養護内容	演習		1	
	保育相談支援	演習	1	保育相談支援	演習		1	
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	こどもの表現あそび	演習		2	
				こどもの体育あそび	演習		2	
				こどもの言葉あそび	演習		2	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習		4	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ	演習		2	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	演習		2	
合計		51単位		必要修得単位数 合計		60単位		

(2) 選択必修科目

児童福祉法施行規則告示別表第2による教科目				左記に対応する本学開設授業科目等				
系列	教科目	授業形態	単位数	授業科目名	授業形態	単位数		備考
						必修	選択	
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単位 以上	保育内容指導論	演習	2		
保育の対象の理解に関する科目				こども理解	講義		2	
保育の内容・方法に関する科目				特別支援教育総論	講義		2	
				保育内容指導（健康）	演習		2	
				保育内容指導（人間関係）	演習		2	
				保育内容指導（言葉）	演習		2	
				保育内容指導（環境）	演習		2	
				保育内容指導（表現）	演習		2	
保育実習	保育実習Ⅱ又は 保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	実習 実習		2 2	2単位以上 選択必修
	保育実習指導Ⅱ 又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	演習 演習		1 1	1単位以上 選択必修
合 計	18単位以上配置、9単位以上修得			必要修得単位数	合 計	9単位以上		22単位配置

(3) 教養科目

児童福祉法施行規則告示による教科目				左記に対応する本学開設授業科目等					
系列	教科目	授業形態	単位数	授業科目名	授業形態	単位数		備考	
						必修	選択		
教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	日本国憲法	講義	2	2		
				情報機器操作Ⅰ	演習				
				学習コーチング学概論	講義	2			
	外国語	演習	2	英語コミュニケーションⅠ	演習	2			
	体育	講義 実技	1 1	健康体育（含実技）	講義 実技		2		
合 計 10 単位以上配置、8 単位以上修得				必要修得単位数		合 計	8 単位以上		10 単位配置

合 計	79単位以上配置、68単位以上修得			必要修得単位数	合 計	77単位以上		92単位配置
-----	-------------------	--	--	---------	-----	--------	--	--------

学芸員資格について

1. 学芸員資格とは

学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業を行う「博物館法」に定められた、博物館におかれる専門的職員である。

2. 資格取得の方法

学芸員となる資格を有するには、下表にある本学所定の単位を修得し、本学を卒業することによって取得することができる。

教育文化学部芸術学科入学生用 学芸員関連科目

法令に定める区分	法令単位	本学開設授業科目		
		授業科目名	開講年次	単位
生涯学習概論	2	生涯学習論	2	2
博物館概論	2	博物館概論	1	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	3	2
博物館展示論	2	博物館展示論	3	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	3	2
博物館教育論	2	博物館教育論	3	2
博物館実習	3	博物館実習	4	3
計	19	計		19

※ 博物館実習を履修する者は原則として実習の前年度までに他の科目を修得済であること。

二級建築士・木造建築士受験資格について

1. 二級建築士・木造建築士受験資格について

二級・木造建築士試験は、建築士法第 13 条の規定に基づいて都道府県知事が行うものである。二級・木造建築士試験の実施に関する事務は、建築士法第 15 条の 6 第 1 項の規定に基づき、都道府県知事から都道府県指定試験機関の指定を受けた財団法人建築技術教育普及センターが行っている。

国土交通大臣が指定する建築に関する科目（指定科目）を修めて卒業後、所定の実務経験（建築士法第 14 条第一号及び第四号の国土交通省令で定める建築に関する実務）で二級・木造建築士試験の受験資格が認めらる。

- ・実務経験 0 年：指定科目の必修・選択必修から 40 単位以上。
- ・実務経験 1 年：指定科目の必修・選択必修から 30 単位以上。
- ・実務経験 2 年：指定科目の必修・選択必修から 20 単位以上。

2. 受験資格取得の方法（二級・木造建築士試験受験資格に必要な科目と単位）

二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格は、次表にある必要単位数（二級・木造建築士試験受験資格に必要な本学での必要単位数）を取得し、芸術学科を卒業することで、実務経験年数に応じた受験資格を得ることができる。

建築士法における規定	指定科目に対応する本学開設科目				二級・木造建築士試験受験資格に必要な本学での必要単位数		
二級・木造	科目名	学年	選択必修	単位	実務経験 0 年	実務経験 1 年	実務経験 2 年
① 建築設計製図実務 (5 単位以上)	空間デザイン基礎	1	選択	2	12 単位	6 単位以上	6 単位以上
	住宅設計演習	2	選択	2			
	インテリア設計Ⅰ	2	選択	2			
	インテリア設計Ⅱ	3	選択	2			
	CAD 設計	2	選択	2			
	店舗デザイン	3	選択	2			
② 建築計画、建築環境工学又は建築設備 (7 単位以上)	ユニバーサルデザイン	1	選択	2	12 単位	8 単位以上	8 単位以上
	リビングデザイン論	1	選択	2			
	インテリアデザイン	1	選択	2			
	空間デザイン史	2	選択	2			
	生活環境	4	選択	2			
	空間設備	3	選択	2			
③ 構造力学、建築一般構造又は建築材料 (6 単位以上)	構造のかたちと力	3	選択	2	6 単位	6 単位	6 単位
	建築空間のしくみ	2	選択	2			
	生活材料学	2	選択	2			
④ 建築生産 (1 単位以上)	住宅と空間の生産	4	選択	2	2 単位	2 単位	2 単位
⑤ 建築法規 (1 単位以上)	都市と空間の法規	4	選択	2	2 単位	2 単位	2 単位
⑥ その他 (適宜)	高齢社会の街づくり	3	選択	2	6 単位	適宜	適宜
	テクニカルスケッチ	2	選択	2			
	空間模型演習	2	選択	2			
合 計				40	40 単位	30 単位以上	24 単位以上

インテリアプランナー資格について

1. インテリアプランナー資格について

インテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家のことであり、国土交通省所管の公益財団法人建築技術教育普及センターが行う試験に合格し、登録を受けた資格者のことをいう。

インテリアプランナーの称号を得るには、当センターが実施するインテリアプランナー試験に合格し、登録を行うことが必要である。試験は、「学科試験」及び「設計製図試験」があり、20歳以上の者は、受験資格がある。インテリアプランナー試験の合格者は、登録を受けることにより「インテリアプランナー」と称することができる。

2. インテリアプランナー登録に必要な実務経験年数短縮の方法

インテリアプランナーとしての登録には、通常インテリアに関する6年以上の実務経験が必要となるが、下表に示すインテリア又は建築に関する所定の単位を修得し芸術学科を卒業した場合（建築技術教育普及センターの認定基準）は、必要実務経験年数が2年に短縮される。

認定基準		本学における開設科目				
区分		科目の種別	科目名	学年	必修 選択	単位数
A	インテリア 関連科目	美術基礎	ドローイングⅠ	1	選択	2
			色彩計画	2	選択	2
		関連デザイン	空間デザイン基礎	1	選択	2
			テクニカルスケッチ	2	選択	2
			グラフィックデザインⅠ	1	選択	2
		デザイン基礎	空間デザイン史	2	選択	2
			ユニバーサルデザイン	1	選択	2
			小計			
B	インテリア 専門科目	インテリア（建築）計画	リビングデザイン論	1	選択	2
			空間設備	3	選択	2
			生活環境	4	選択	2
		インテリア（建築）の装備・ 施工	建築空間のしくみ	2	選択	2
			構造のかたちと力	3	選択	2
			空間模型演習	2	選択	2
			生活材料学	2	選択	2
			住宅と空間の生産	4	選択	2
		インテリア（建築）法規	都市と空間の法規	4	選択	2
		インテリア（建築）設計[講 義]	インテリアデザイン	1	選択	2
			CAD設計	2	選択	2
		インテリア（建築）設計[実 技] ※2科目以上修得する	住宅設計演習	2	選択	2
			インテリア設計Ⅰ	2	選択	2
			インテリア設計Ⅱ	3	選択	2
			店舗デザイン	3	選択	2
			小計			

※必要単位数 A+B=36 単位以上、B=24 単位以上、「インテリア（建築）設計[実技]」を2科目以上修得

添付資料 1-5

認定心理士（社団法人日本心理学会）資格取得について

1. 認定心理士とは

社団法人日本心理学会では、4年制大学における心理学科、またはそれに準ずる課程を修了し、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要な最小限の標準的、基礎的学力と技能を修得していると認定された人々に対して「認定心理士」の資格を認定している。

2. 資格の取得方法

認定心理士の資格取得を希望する学生は、下表に定める本学所定の単位を履修することによって、諸手続きを済ませた後に認定心理士の資格を取得することができる。

(1) 所定修得科目

規定に定める領域	本学開講科目		
基礎科目（注1）	授業科目	年次	単位
a 心理学概論	心理学概論	1	2
	教育心理学	1	2
b 心理学研究法	心理学研究法	2	2
	心理アセスメント法	2	2
	心理統計法	2	2
c 心理学実験・実習	心理学基礎実験	2	4
選択科目（注2）			
d 知覚心理学 学習心理学	学習心理学	1	2
	認知心理学	2	2
e 生理心理学 比較心理学	生理心理学	1	2
	脳と心の科学	2	2
f 教育心理学 発達心理学	生涯発達心理学	1	2
	乳幼児心理学	1	2
	児童心理学	2	2
	青年心理学	2	2
	高齢者心理学	2	2
	ライフサイクルの心理学	3	2

g 臨床心理学 人格心理学	臨床心理学	2	2
	ポジティブ心理学	3	2
	犯罪心理学	2	2
	障害者心理学	2	2
	カウンセリング心理学	2	2
	臨床心理援助技法論Ⅰ（精神分析療法）	3	2
	臨床心理援助技法論Ⅱ（認知行動療法）	3	2
	臨床心理援助技法論Ⅲ（ブリーフ・セラピー）	3	2
	スクールカウンセリング	3	2
	心理面接演習	3	4
	心身医学（注4）	2	1（2）
	福祉心理学	1	2
	モチベーション心理学	4	2
	育児支援の心理学	2	2
	人間関係の心理学	1	2
h 社会心理学 産業心理学	社会心理学	1	2
	産業・組織心理学	3	2
	家族心理学	3	2
	コミュニケーション心理学	3	2
	キャリアカウンセリング	4	2
その他の科目（注3）			
i 心理学関連科目 卒業研究	専門演習Ⅰ	3	2
	専門演習Ⅱ	3	2
	卒業研究	4	4
計		36 単位以上	

注1) 基礎科目においては、a 領域と b 領域それぞれが 4 単位以上、c 領域 3 単位以上を修得し、合計 12 単位以上であること。

注2) 選択科目においては、5 領域のうち 3 領域以上でそれぞれが少なくとも 4 単位以上、5 領域の合計が 16 単位以上であること。3 領域においては規定の最低 4 単位のうち少なくとも 2 単位分は「基本主題」に対応した単位でなければならない。

注3) その他の科目においては、心理学に関連したテーマであること。認定に必要な単位として最大 4 単位までを認める。

注4) 「心身医学」は副次主題となり、認定心理士の認定に関しては 1 単位の認定となる。

(2) 審査認定費用

審査料に 10,000 円必要となる。合格した場合、認定料として 30,000 円必要となる。

3. 資格取得後の考えられる進路

認定心理士は社団法人日本心理学会が認定する、心理学の基礎資格であり、職能の資格ではないが、医療機関における心理職（精神科病院、精神科クリニック、小児科クリニック、児童療育施設など）他の求人実績がある。

福祉心理士（日本福祉心理学会）資格取得について

1. 福祉心理士とは

日本福祉心理学会が認定する資格であり、福祉サービスを利用する人のアセスメントを行ったり、サービス利用者やその家族、そして、そこで働く職員の福祉心理相談・支援を行ったりするうえで専門家として求められる基礎学力と技能を修得していると、本学会が認定した人のことである。

2. 資格の取得方法

福祉心理士の資格取得を希望する学生は、下表に定める本学所定の科目の単位を修得した後、日本福祉心理学会の正会員あるいは準会員となることによって、福祉心理士の資格を取得することができる。

(1) 所定修得科目

下表のとおりである。

(2) 認定審査について

所定の申請期間に、指定された書類を提出して、認定審査を受ける（認定審査料 20,000 円）。審査に合格した場合、認定料（10,000 円）を納付すると、日本福祉心理学会理事長より資格認定証が交付される。

3. 資格取得後の考えられる進路

- ・ 児童に関する福祉機関（児童養護施設・児童自立支援施設など）
- ・ 障害児・者に関する福祉機関（障害者自立支援法に基づく事業所など）
- ・ 高齢者に関する福祉機関

領域	指定科目	規定単位	本学開講科目	開講年次	本学単位	認定単位	備考
科 基 目 礎	心理学	2	心理学概論	1	②	2	指定科目のうち、 2科目について、 各2単位以上
	福祉心理学	2	福祉心理学	1	2	2	
	社会福祉学	2	現代社会と福祉Ⅰ	4	2	2	
心 理 学 関 係 科 目	臨床心理学	2	臨床心理学	2	②	2	指定科目のうち、 4科目8単位を含 み、合計12単位以 上
	心理検査法	2	心理アセスメント法	2	2	2	
	カウンセリング(心理相談)	2	カウンセリング心理学	2	2	2	
	心理療法	2	臨床心理援助技法論Ⅰ(精神分析療法)	3	2	2	
	児童心理	2	児童心理学	2	2	2	
	発達心理	2	生涯発達心理学	1	2	2	
	障害者の心理	2	障害者心理学	2	2	2	
	高齢者の心理	2	高齢者心理学	2	2	2	
			学習心理学	1	2	2	
			教育心理学	1	2	2	
			生理心理学	1	2	2	
			生涯発達心理学	1	2	2	
			社会心理学	1	2	2	
			人間関係の心理学	1	2	2	
			乳幼児心理学	1	2	2	
			育児支援の心理学	2	2	2	
			青年心理学	2	2	2	
			心理統計法	2	②	2	
			心理学基礎実験	2	4	4	
			心理学研究法	2	②	2	
			認知心理学	2	2	2	
			犯罪心理学	2	2	2	
			ライフサイクルの心理学	3	2	2	
			臨床心理援助技法論Ⅱ(認知行動療法)	3	2	2	
			臨床心理援助技法論Ⅲ(ブリーフ・セラピー)	3	2	2	
			家族心理学	3	2	2	
			産業・組織心理学	3	2	2	
			コミュニケーション心理学	3	2	2	
			スクールカウンセリング	3	2	2	
			ポジティブ心理学	3	2	2	
			モチベーション心理学	4	2	2	
			現代社会と臨床心理学	4	2	2	
社 会 福 祉 学 関 係 科 目	相談援助	2	心理面接演習	3	4	4	指定科目のうち、 いずれか2単位を 含み、合計12単 位以上
	精神保健福祉援助技術	2	精神保健福祉援助技術総論	2	2	2	
			現代生活と福祉	2	2	2	
			地域福祉論Ⅰ	3	2	2	
			生活の中の介護福祉	2	2	2	
			福祉用具と環境	3	2	2	
			社会的養護論	4	2	2	
			現代社会と福祉Ⅱ	4	2	2	
			地域福祉論Ⅱ	3	2	2	
			社会保障論Ⅰ	3	2	2	
			社会保障論Ⅱ	3	2	2	
			公的扶助論	2	2	2	
			社会福祉行政・福祉計画論	4	2	2	
			医療福祉論	3	2	2	
			権利擁護と成年後見制度	3	2	2	
			障害者福祉論	2	2	2	
			ソーシャルワーク概説Ⅰ	2	2	2	
			ソーシャルワーク概説Ⅱ	2	2	2	
			精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	2	2	2	
			精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	3	2	2	
			精神保健福祉学Ⅰ	2	2	2	
			精神保健福祉学Ⅱ	2	2	2	
			精神保健福祉学Ⅲ	4	2	2	
			精神保健福祉援助演習Ⅰ	3	2	2	
			精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2	2	
			精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	2	2	
			精神保健福祉援助実習指導	3・4	3	2	
			精神保健福祉援助実習	3・4	7	2	
保 健 医 療 科 目			精神医学Ⅰ	2	2	2	*
			精神医学Ⅱ	2	2	2	
			精神保健Ⅰ	3	2	2	
			精神保健Ⅱ	3	2	2	
			精神科リハビリテーション	3	4	4	
	計			総計32単位以上			
＊心理学関係科目のうち 2 科目4 単位、および社会福祉学関係科目のうち2科目4単位の計4科目8単位については、医療・保健関係科目(精神医学、神 経内科学、リハビリテーション論、精神保健学などの科目)をもって代替できる。							

添付資料 1-7

精神保健福祉士受験資格取得について

1. 精神保健福祉士とは

精神保健福祉士とは、精神保健福祉に関する専門的知識および技術をもって、精神科病院等において精神障害の医療を受け、または精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設の利用者の地域相談支援の利用に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練、その他の援助を行う専門家である。

2. 受験資格の取得方法

精神保健福祉士の資格取得を希望する学生は、下表に定める本学所定の単位を習得することによって、厚生労働大臣の指定を受けた公益財団法人社会福祉振興・試験センターの実施する精神保健福祉士国家試験を受けることができる。

(1) 所定修得科目

法定基準	本学開講科目		
指定科目	授業科目	年次	単位
人体の構造と機能及び疾病※	医学概論	1	2
心理学理論と心理的支援※	心理学概論	1	2
社会理論と社会システム※	社会学	1	2
現代社会と福祉	現代社会と福祉Ⅰ	4	2
	現代社会と福祉Ⅱ	4	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	3	2
	地域福祉論Ⅱ	3	2
社会保障	社会保障論Ⅰ	3	2
	社会保障論Ⅱ	3	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	2
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行政・福祉計画論	4	2
保健医療サービス	医療福祉論	3	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	3	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2	2
精神疾患とその治療	精神医学Ⅰ	2	2
	精神医学Ⅱ	2	2
精神保健の課題と支援	精神保健Ⅰ	3	2
	精神保健Ⅱ	3	2
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	ソーシャルワーク概説Ⅰ	2	2
	ソーシャルワーク概説Ⅱ	2	2
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉援助技術総論	2	2

精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神科リハビリテーション	3	4
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	2	2
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	3	2
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉学Ⅰ	2	2
	精神保健福祉学Ⅱ	2	2
精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉学Ⅲ	4	2
精神保健福祉援助演習（基礎）	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3	2
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉援助実習指導	3～4	3
精神保健福祉援助実習	精神保健福祉援助実習	3～4	7

※印の指定科目から1科目選択

(2) 国家試験の受験

所定の単位を取得した（取得予定の）学生は、卒業年の1月末に実施される、精神保健福祉士国家試験を受験することができる（受験料13,250円）。

(3) 資格登録について

精神保健福祉士国家試験に合格した者は、厚生労働大臣の指定を受けた公益財団法人社会福祉振興・試験センターに精神保健福祉士登録申請を行い（登録免許税15,000円、登録手数料4,050円）、登録証が交付される。

3. 資格取得後の考えられる進路

- ・医療機関（精神科病院、精神科クリニックをはじめ、総合病院など）
- ・障害者生活支援施設（障害者総合福祉法による就労支援事業、グループホーム、地域活動支援センターなど）
- ・福祉行政機関（精神保健福祉センター、自治体、保健所、福祉事務所など）
- ・司法施設（保護観察所、矯正施設など）
- ・その他、介護保険関連施設やハローワーク、教育機関など

添付資料 1-8

産業カウンセラー（社団法人日本産業カウンセラー協会）受験資格取得について

1. 産業カウンセラーとは

産業カウンセラーは、心理学的手法を用いて、働く人たちが抱える課題を、自らの力で解決できるように援助を行う専門家であり、メンタルヘルス対策への援助、キャリア開発への援助、職場における人間関係開発への援助という3領域での活動を行っている。

2. 資格の取得方法

産業カウンセラーの資格取得を希望する学生は、下表に定める本学所定の単位を習得した後、卒業後に社団法人産業カウンセラー協会による面接実習（28時間4日間）を受講した後、同協会による資格認定試験を受けることができる。

(1) 所定修得科目

社団が定める科目群	本学開講科目		
	授業科目	年次	単位
A 群：産業カウンセリング、カウンセリング、臨床心理学、心理療法各論（精神分析・行動療法など）などの科目群	カウンセリング心理学	2	2
	臨床心理学	2	2
	臨床心理援助技法論Ⅰ（精神分析療法）	3	2
	臨床心理援助技法論Ⅱ（認知行動療法）	3	2
	臨床心理援助技法論Ⅲ（ブリーフ・セラピー）	3	2
B 群：カウンセリング演習 カウンセリング実習などの科目群	心理面接演習	3	4
C 群：人格心理学、心理アセスメント法などの科目群	心理アセスメント法	2	2
D 群：キャリア・カウンセリング、キャリア概論などの科目群	キャリアカウンセリング	4	2
E 群：産業心理学、産業・組織心理学、グループダイナミックス、人間関係論などの科目群	人間関係の心理学	1	2
	産業・組織心理学	3	2
F 群：労働法令の科目群	労働法令	2	2
G 群：精神医学、精神保健、精神衛生、心身医学、ストレス学、職場のメンタルヘルスなどの科目群	心身医学	2	2
	精神医学Ⅰ	2	2
	精神保健Ⅰ	3	2

※A 群から G 群までの科目において、1 科目を 2 単位以内として 10 科目以上、20 単位以上を取得していることを要する。ただし、D 群から G 群の科目による取得単位は 6 単位以内とする。

(2) 資格取得試験の受験

所定の単位を取得した学生は、卒業後（卒業年の 3～4 月）に受験資格の申請を行い、認

められた後に面接実習を受講した後に資格認定試験を受験することができる（学科試験 10,500 円、実技試験 21,000 円）。資格認定試験は学科試験と実技試験の両方に合格する必要がある。

学科試験又は実技試験のいずれか一方に合格した者は、試験が実施された年度の翌年度及び翌々年度の当該学科試験又は実技試験の免除を受けることができる。

（3）資格登録について

資格認定試験に合格した者は産業カウンセラー試験合格者登録台帳に登録され、合格証書及び産業カウンセラーの称号が授与される。

3. 資格取得後の考えられる進路

企業・組織内での人事・厚生部門、組織内カウンセラー、あるいはメンタルヘルス対策従事者など